

御議論していただきたいこと

1. AI・デジタルによる「行財政改革」のバージョンアップ

(1) 行財政改革を、「削る」行革から「作り変える」行革へ

- ・ これまでの行革は、「無駄を削る」ことだけに集中しすぎていないか。人手不足の中で、多様化する個人のニーズに応えるには、デジタルを活用した「作り変える」行革が必要ではないか。

(2) AI・デジタルを駆使した新たなサービスの創出

- ・ 個人のニーズに最適化された行政サービスを実現するには、現場にある多様なデータと AI を縦割りを超えて駆使し、育てることが必要ではないか。
- ・ 具体的には、どのようなデータと行政サービスの組み合わせが考えられるか。
 - 人流データを駆使したモビリティ・サービスの再構築
 - 子育て中の各種健診・児童相談データと最適な子育て環境の構築 など

(3) AI・デジタルの時代に対応した統治機構の在り方

- ・ 行政組織の縦割りを超え AI とデータを駆使したサービスを創出するため、より大胆な官民連携やベンチャーの活用などをどのように進めればよいか。その他、有意な方策はないか。
- ・ これらに用いる政府 AI はどのように学習し、育てていくべきか。

2. AI・デジタルが生み出す新たな産業

(1) AI とロボティクス

- ・ 手足やボディーを持つロボティクスはもともと我が国の強み分野。AI * ロボティクスは、世界に打ち出す我が国産業の新たな強みとなるのではないか。

(2) AI とインフラ

- ・ 上下水道をはじめとするインフラなどの配管をはじめとする地中、空間の各種情報を大量にデータ化し、AI の開発を促すことによって、異次元のインフラ管理サービスを生み出すことができないか。

(3) 自動走行技術を活用した新たなモビリティ・サービス産業

- ・ モノづくりの視点から語られた自動車産業は、自動運転を核にサービスの視点から語られるモビリティ・サービス産業へと再構築されていくのではないか。
- ・ その先駆けとして、自動運転タクシーを米国等の先進国と同水準で日本に導入するために必要な規制緩和等の方策はあるか。

3. AI・デジタルと地方創生

(1) 地方の価値をグローバル基準で再評価する（地方創生 2.0）

- ・ DAO, NFT などを用いれば、地元では気づかれない付加価値を認めるグローバルな市場から、地域の魅力を直接評価してもらうことができるのではないかな。
- ・ 市場をグローバルに広げるにより、高付加価値だけでなく、量の面からも、地方の可能性を広げてくれるのではないかな。
- ・ それぞれ若しくは双方について、また AI を駆使した取組について、モデルとなるベストプラクティスはないかな。

(2) デジタル公共財を使いこなせる地方へ

- ・ DAO, NFT といった、より多くの地域で活用されるべき「デジタル公共財」を、財政力の強弱に限らず活用できるよう、健全な「デジタル公共財」市場を作るべきではないかな。
- ・ DMP、共同利用・共同調達、公共セクターによる一時的な買い上げなど、デジタル公共財の横展開を支援する適切な方策はないかな。

4. データの利活用と AI

(1) データの連携・共有を促す仕組みの構築

- ・ 個人情報に基づく「同意疲れ」以外にも、企業におけるデータの「死蔵・囲い込み」の傾向が指摘されることがあるが、プライバシーや知財等への配慮を前提に、これらをオープン化してもらうための実効的な方策はどのようなものか（義務的なアプローチの是非を含め企業にどのようなモチベーションを設計できるか）。どのような情報から議論を急ぐべきか。
 - 医療データ（創薬、医学研究、EBPM 等の二次利用が主眼）
 - 教育データ（転校・進学時の利便性など一次利用が主眼）、
 - 金融データ（家計把握を通じた資産運用の促進など一次利用が主眼）
 - 産業データ（製品中のカーボンフットプリント情報のサプライチェーンを通じた把握など一次利用が主眼）など

(2) データ連携基盤（データスペース）の整備

- ・ 医療、モビリティ、製造業など特定の分野におけるデータの共有・連携と新たなサービスの創出を加速するため、EU はデータスペースの構築に積極的に取り組もうとしている。我が国はこれをどう評価し、今後どのように取り組んでいくべきか。

※) その他にも、重要と思われる視点や取り組みがあれば、上記に関わらず自由にご発言ください。